

平成27年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1492300130	事業の開始年月日	平成23年12月1日
		指定年月日	平成23年12月1日
法人名	株式会社へいあん		
事業所名	グループホーム「へいあん荻窪」		
所在地	(250-0042) 小田原市荻窪887		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	平成27年12月25日	評価結果 市町村受理日	平成28年6月30日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

へいあん荻窪は、当法人として5箇所目のグループホームということで、設備面では細かな点において、経験を生かした内容となっておりますが、最も大きな他施設との違いは、中庭スペースを広く取り、菜園では季節の野菜を育てている。安全確認用カメラを設置する、などの工夫をしている点です。これは、建物内に限らず、敷地内全体を安全・安心のスペースとして入居者様に自由に活用して頂くことを目指して設計したものです。また、車での外出や外出の難しい方も内部のイベントを積極的に開催しお客様に喜んで頂いている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	平成28年1月21日	評価機関 評価決定日	平成28年5月11日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の概要】 この事業所は、JR東海道線、小田急小田原線の小田原駅から徒歩18分ほどの住宅地にある。建物は木造2階建てバリアフリー構造である。内部は、エレベーター、車椅子での対応が可能なトイレと洗面台、蹴上げを低くした階段、脱衣室の個別収納棚、出入口の幅広い引き戸、スペースを充分確保した廊下や居間など、入居者が安全で快適な生活が送れるよう配慮された作りになっている。必要な箇所に手すりも設置されている。 【感染症の予防対策】 手すりやドアノブの消毒を励行している。玄関内に設置された手洗い所にはペーパータオル、紙コップなどを常備し、外出後のうがい・手洗いを徹底し感染症の予防対策をしている。 【外出支援と120名規模の食事会】 職員は、利用者の笑顔が見られるよう年間の行事計画を作成し、地域行事への参加、季節の花見や外食など様々な外出支援をしている。今年度は、法人が運営している結婚式場の調理部門の協力を得て、グループホームへいあん鴨宮と合同で、家族会と職員の慰労も兼ねた食事会を開催した。120人ほどが参加して交流を深める機会となった。 【災害対策】 夜間を想定した災害・避難訓練を年3回実施している。訓練では、避難した利用者の見守りを近隣住民に依頼している。また、利用者マットレスで包み、階段を使って階下に移送する訓練を行った。終了後に職員間で問題点を話し合い、次回の訓練に活かしている。簡易トイレ、消毒液、3日分の食料や水などを備蓄している。
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム「へいあん荻窪」
ユニット名	みかん（1階）

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

事業所名	グループホーム「へいあん荻窪」
ユニット名	小梅（2階）

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開所時のスタッフ全員で作成した事業所理念を、毎朝の朝礼、申し送り時に唱和、理念の共有に努めている。	「私たちは、心からの笑顔で明るく楽しい暮らしを創っていきます」など3項目の理念を毎日朝礼で唱和している。フロアに掲示して共有し、日々のケアの場面で実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の清掃活動やお祭りなど各種イベントに参加したり、逆にボランティア活動に参加して頂いたりしている（観劇・ハーモニカ・フラダンスなど）	荻窪自治会に加入し、清掃活動やどんど焼きなどの地域の行事に参加している。中学生の職業体験を受け入れ、大学生のボランティアなどが来訪し交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を、通して入居者の状況の報告介護度などを報告している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開所以来、2ヶ月に1度、定期開催しており、運営状況を含め、業務事故やヒヤリハット事例等も開示、報告している。	運営推進会議は、民生委員、自治会長、オーナー、地域包括支援センター職員、利用者代表が参加している。年6回開催し、事業所の活動報告などが行われている。参加者からは、河川氾濫の避難勧告時の対応についての意見をいただいている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	小田原市役所高齢介護課や第6地域包括支援センターとやりとりを行っている。	地域包括支援センター職員とは、運営推進会議を通して連絡を深め、協力関係の構築に努めている。市内のグループホーム連絡会主催の「RUN伴+小田原」に参加して、会員や行政職員と交流している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束にあたる具体的な行為は正しく理解し、定期的研修等通じて教育を行っております。安全確保の観点から、玄関の施錠、2階フロア出入り口の施錠を現在行っています。	年1回、法人主催の研修を行い職員に理解を促している。居室は内・外側から施開錠できる。転倒リスクの高い利用者には、ベッドサイドにセンサーマットを設置している。階段での転落防止などの安全確保のため、2階ユニットの出入り口や正面玄関は施錠している。玄関側面のドアは日中開錠し、中庭に出られるようにしている。	利用者の家族には、安全確保のために、ユニットの出入り口と正面玄関を施錠していることを説明し、理解を得ることが望まれます。施錠をしていることで、利用者が抑圧感を抱いていないかなどを職員間で検討することを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今年度は12月～2月にかけての身体拘束・虐待防止研修を全スタッフ受講予定です。ミーティングの際、虐待に繋がることはないか話し合っている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については現在利用実績なし。年1回全従業員対象に権利擁護に関する研修を行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約時、契約書、重要事項説明書、預かり金管理及び日用品購入等代行についての約定書、等について十分な時間を取りご説明、ご理解いただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には、毎回利用者やご家族に参加して頂き、要望等を伺う機会としているが、現在のところ具体的な要望等は出ていない。	家族の来訪時や介護計画の見直し時に利用者の様子を話し、意見や要望を聞いている。年に2回開催する家族会でも伝えている。家族から出された「湯たんぽを使ってほしい」などの要望は、個々のケアに反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回のリーダーミーティング、フロアミーティングにて、意見や提案を聞く機会を設けている。	管理者は、ミーティングや年2回の労働条件通知書を交付する際の面談などで、職員からの意見や要望を聞いている。利用者の生活状況に合わせた支援体制を整えたいという意見を反映して、職員が勤務する時間帯を変更している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	平成27年4月にて、介護職員処遇改善に繋がる賃金体系見直しを実施、また職業能力等級にて給与水準を明確化している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や職員一人ひとりの個別研修計画（年間）を作成、それぞれが力量に合せた目標を設定、個々のレベルアップを図る環境を整えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	GH連絡会への参加、活動等について、理解と支援をして頂いている。今年度もRUN伴+小田原に参加、マラソンを通じて相互交流を深めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所当初の不安を出来る限り緩和できるように、スタッフ全員が笑顔で、お客様の声に耳を傾けることを心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族等との関係作りは、入居者の安心の生活にも欠かせない条件であると認識し、契約時から信頼関係作りを重点を置いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントの段階で、出来るだけご本人、ご家族の意向を聞きだし、ケアプランに反映するよう心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯たたみや食器洗いなどその人が出来ることを行っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族がホームに立ち寄りやすい雰囲気作りに注力している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族だけでなく、友人の方々も気軽に面会に気安い環境づくりに努めている。	アセスメントや家族の協力を得て、利用者のこれまでの馴染みの人や場所との関係の把握に努めている。中庭での畑仕事、馴染みのパン屋への買い物など、利用者の入居前からの生活の継続や馴染みの関係を維持するための支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性については、日頃から注意深く観察し、適切なフォローで関係作りを支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、必要に応じて本人、家族が気軽に相談声掛けして頂ける関係作りを心掛けている。逆に退去後のご様子もご連絡して頂いている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	月1回のモニタリングや担当制により、一人ひとりの利用者の希望、意向を把握できるような体制をとっている。	アセスメントや家族の話などから利用者の意向を把握している。「ジグソーパズルが好き」「畑仕事が好き」など、把握した意向は職員が共有している。思いや意向の把握が困難な利用者は、居室担当職員が日ごろ捉えている利用者の表情などを見逃さぬように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	機会ある毎に、管理者、計画作成担当者、又はフロアリーダーからご家族等にこれまでの経過等を聞き取るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現状把握は、スタッフ全員が心がけ、個別サービス記録・申し送りノート、ミーティング等に残し情報を共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のモニタリングは、各担当者がまとめ、フロアミーティングにおいて検討、介護計画を作成している。	利用者や家族から「大好きな歌を楽しみたい」「シルバーカーを使って歩けるように」などの希望を聞き取り、必要な利用者には医師の意見も参考にして介護計画を策定している。毎月居室担当者がモニタリングを行って支援総合評価表を作成している。利用開始時に1～2ヶ月間の暫定計画を作成し、その後は6ヶ月に1度、介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアプランの実践状況は、スタッフ全員で個別記録への記入を心掛けている。申し送りノート、横ノート（スタッフ間情報共有用）を利用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	H25年7月より、共用型の通所を開所し受け入れの準備をしている。（過去1名利用）		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要に応じて、訪問マッサージ・訪問歯科等活用している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診頂けるかかりつけ医として、現在内科と精神科のDr 2名に関わって頂いている。	利用者1名を除く全員が、月2回、協力医の訪問診療を受けている。歯科や整形外科などの専門医への受診は、家族が対応している。その際は、家族から受診結果を聞いて個別サービス記録に記載している。訪問看護師が毎週来訪して、利用者の健康管理を行っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人の訪問看護ステーション（平塚）から、週1回訪問を受け、入居者の健康管理を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院のソーシャルワーカーとは、緊密に連絡を取り合っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に当社の方針はお伝えし、ご理解頂いている。必要に応じて「重度化した場合における対応に関する同意書」の締結等行っている。	利用者や家族の意向、事業所がその状態に対応できるかを踏まえ、医師、職員が連携し看取りを行うことを記載した「看取りに関する指針」を作成し、利用開始時に本人や家族の意向を確認し看取り介護の同意書に署名捺印をもらっている。27年1月に内部研修を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフ全員がCPR研修を受講済み、日常の朝礼時にもCPR手順を復唱し、実践力を身に付けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年の6月と9月避難・防災訓練を実施、1月に消火訓練を実施する予定です。	今年度は、6月、9月、1月に火災などを想定した訓練を実施している。参加いただいた近隣の方に利用者の見守りなどを依頼している。地域の防災訓練に職員が参加している。災害時の備蓄として消毒薬、コンロ、簡易トイレ、3日分の飲料水や食料などを準備している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	社内で実施の研修において、お客様への言葉かけ、関係作りについて勉強している。	12月の個人情報保護についての研修でプライバシーの確保について学んでいる。居室やトイレのドアは開け放しにしない、利用者の尊厳を冒す言葉使いをしない事を職場の共通認識としている。	
37	○	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が気兼ねなく思いを伝えられる雰囲気を作ること、その為にはお客様と信頼関係を築くことを重視している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務を優先するのではなく、お客様のペースに合わせるよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服をご自身で選んで頂いたり、イベント時には化粧をするなど楽しみを持って頂いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その方の能力に応じて、食器洗いなど、出来ることは一緒にお手伝い頂いています。	職員は、見守りや介助をしながら利用者と一緒に同じ食事をしている。利用者は、下膳や食器洗いなどを行っている。刺身やパンなどの利用者の希望に沿った食事や外出時の昼食、クリスマスケーキや行事食などで食事を楽しめるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量と水分量は毎日チェックし摂取量を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを促し、実践して頂けるよう声掛けをしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	日中はトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。排泄チェック表を活用し、排泄パターン把握に努めている。	排泄チェック表に基づき。排泄のリズムを把握している。日中は、トイレ誘導することで排泄の自立を促している。病院を退院した利用者が、支援によりおむつから紙パンツ使用へと改善した事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルトや牛乳、オリゴ糖など、飲食物の工夫をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	体調に合わせて入浴をしていただく、必要であれば時間を問わず実施し、希望があれば出来るだけ添うようにしている。	概ね3日に1度、午後の時間帯での入浴を原則としているが、回数や時間は利用者の希望に合わせて対応している。入浴を好まない利用者には、時間を変えたり、対応する職員を代えて入浴を促している。ゆず湯などでも入浴を楽しめるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に合わせて午睡のすすめや、環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理については、服薬チェック表を活用している。個別のファイルに処方された薬の内容が常に新しいものが上にくるように綴じられ確認出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たたみやテーブル拭きの声掛けにて役割作り、又洋裁や草取りなどの昔の馴染みの特技。カフェの開催で楽しんで頂く工夫をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	中庭での散歩等、戸外に出るよう声掛けを行っている。同法人の結婚式場をかりGH鴨宮・荻窪合同の食事会を開催120名の方にご来訪頂いた。	利用者は、中庭を散歩したり、服などの買物に出かけている。車いすの方も中庭に出て、外気浴をして気分転換を図っている。歩くことの好きな利用者は、2日に1度程度、職員と一緒に近所を散策している。年間の行事計画を作成し、季節の花見や箱根、江の島などへの遠出や運動会などの自治会行事に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は、現在施設にて管理しています。買物に同行して頂き、お好きなものを購入して頂く等の支援は行っていますが、本人所持は基本ないが、小銭をお持ちの方はいらっしゃる		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望されるお客様には、本人自ら電話して頂く等、支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安心して暮らしていただける居住空間を心がけ、季節感を取り入れた装飾等工夫している。	フロアはバリアフリーで、車椅子での対応が可能なトイレと洗面台がある。中庭に季節の野菜を植え収穫している。1日3回温湿度をチェックしている。トイレに窓を設置し、採光や換気に配慮している。居間、トイレ、浴室、廊下などは、十分なスペースがある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング、ダイニングのほか、談話コーナーが設けてあり、独りになりたいお客様の良い居場所となっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、出来るだけ使い慣れた馴染みのものを持ち込んで頂いている。（照明も含めて）	事業所の備えつけは、エアコンとクローゼットのみで、居室の様子はそれぞれに違っている。照明、テレビ、ベッド、家族の写真、机、いすなどが持ち込まれ、利用者が居心地よく過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ、浴室や居室内の手すりの位置に配慮、洗面台も車椅子対応の鏡を備える等、工夫している。階段の段差の高さも配慮、敷地内を含め6箇所に監視カメラも設置している。		

目標達成計画



事業所名

91-70-1 入居介護課

作成日

H28 ~~6.25~~ 6.30

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	5	安全の確保の為 2F エントリ出入口を 施錠にする。	可能な限り、 出入口の施錠を 開放時間を 増やしていく。又、学ば ずの説明。	開放時間を 2分間を短縮し 増やしていく。 又、Fの施錠を開放時 に短くする。	約 6ヶ月
2					
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。
注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。